

第35回 医学教育指導者フォーラム 開催要綱

趣 旨	大学医学部における医学教育の改善並びに教育研究組織の円滑な管理運営に資するため、医学教育について責任ある立場にある方の参加を得て、医学教育の様々な問題について情報の交換並びに討論を行う。
主 題	医師法改正後のあるべき診療参加型臨床実習とは
主 催	公益財団法人 医学教育振興財団
期 日	令和6年7月23日(火)
開催方式	対面・オンライン (Zoom Webinar)
会 場	東京慈恵会医科大学 大学1号館講堂(3階) 105-8461 東京都港区西新橋3-25-8
参加者	国公私立医科大学学長、医学部長、医学部附属病院長及び教務委員長等

日 程

12:45	受 付	進行) 医学教育振興財団事務局長 和氣 太司
13:00	開 会	〈開会挨拶〉 医学教育振興財団理事長 小川 秀興 〈挨拶〉 文部科学省高等教育局医学教育課長 俵 幸嗣
13:10	〈趣旨説明〉	医学教育振興財団常務理事 北村 聖
13:20	講演1	Clinical Practice in the Early Years of Medical School Professor, University of California, San Francisco USA Anna Chang 司会) 東京医科歯科大学医学部長 東田 修二 〈質疑応答 15分〉
14:20	講演2	Increasing Expectations for Medical Students as Practitioners Professor, University of California, San Francisco USA Calvin Chou 司会) 聖マリアンナ医科大学特任教授 伊野 美幸 〈質疑応答 15分〉
15:20	休憩 (15分)	
15:35	総合討論	「医師法改正後のあるべき診療参加型臨床実習とは」 司会) 錦織 宏 (名古屋大学総合医学教育センター教授) ・ 話題提供 診療参加型までの臨床実習について考える 泉 美貴 (昭和大学医学部教授) 診療参加型臨床実習の実践と問題点 山根 正修 (島根大学医学部教授) 地方中規模病院における臨床実習と医学生教育 佐藤 泰吾 (諏訪中央病院院長) ・ 討論 パネリスト: Anna Chang、Calvin Chou、泉、山根、佐藤
16:55	閉 会	〈閉会挨拶〉 医学教育振興財団常務理事 栗原 敏
17:00	終 了	

医師法改定後のあるべき診療参加型臨床実習とは（趣旨と背景）

医学教育振興財団常務理事
北村 聖

臨床医を育成する医学教育においては、座学の臨床医学の講義はもとより、教養や基礎医学の学修もすべからず、充実した診療参加型臨床実習のためにあると言っても過言ではない。すなわち、臨床実習こそが臨床教育の華であると言える。しかし、明治維新後、我が国はドイツ式の医学教育を取り入れたために、病院でなく医学部の研究室での教育を中心として行われ、臨床実習に力を入れてこなかった。戦後、GHQ のサムズ准将の主導のもとアメリカ式の医学教育が行われ、卒業後 1 年間のインターンを行うことが義務付けられた。国家試験受験はインターンが終わってからであり、その当時のインターンは今の臨床実習に相応していた。大学を卒業しても収入がないなどの不安定さから学園紛争の争点となり、インターン制度は昭和 43 年に廃止され、その後、給料の出る臨床研修になった。これは努力義務であり、また、ストレート研修で専門とする診療科だけで良いとする制度であり、社会の要請を十分に反映したものとは言えなかった。

平成 16 年に新臨床研修制度が施行され、2 年間の研修が義務付けられ、また、スーパーローテートが導入された。導入されてみると、その有効性が認識されると同時に、学生時代の臨床実習があまりにも見学型で、その間のギャップの大きさが目立つようになった。我が国の医学教育は 2001 年に医学教育モデル・コア・カリキュラムが初めて制定され、ほぼ 6 年毎に改訂されている。平成 22 年度版、28 年度版、そしてこの 4 月から導入された令和 4 年度版では診療参加型臨床実習と学習成果基盤型教育を 2 つの柱とにおいて推し進めている。

文部科学省も、診療参加型臨床実習の実現には、医師法の改正もいとわず、本気度を見せており、また医療系大学間共用試験実施評価機構の実施する共用試験が公的な試験と位置づけられた。実は、2 年前の本フォーラム(第 33 回医学教育指導者フォーラム)において「Student Doctor のための診療参加型臨床実習」という主題で、討論を頂いた。そして、本年、更に進化した形で診療参加型臨床実習を掘り下げたいと考えている。基調となる講演では、ともに UCSF の Anna Chang 先生と Calvin Chou 先生に、臨床実習前の臨床教育と臨床実習における臨床経験の広がりについて紹介していただき、その後、我が国における診療参加型臨床実習の実態と課題について討論を行う。

臨床教育のシームレス化が叫ばれて久しい。診療参加型臨床実習から臨床研修へ、そして専門研修へ継ぎ目なく深まっているのが理想と思われるが、その間に、国家試験があり、6 年生は実習を終えて半年以上机に向かうことを余儀なくされている。そんなところにも、これから解決すべき課題があると思われる。